

コード No. 10417

**Anti-Human  
Angiotensinogen (104AT 601.2.80) Mouse IgG MoAb**

容量 : 100 µg

はじめに : アンジオテンシノーゲンはアンジオテンシンの前駆体であり、レニン-アンジオテンシン系においてアンジオテンシン I、II へと分解され、血圧の制御に重要な役割を果たしていることは古くから報告されてきました。近年、このレニン-アンジオテンシン系の動脈圧制御や高血圧症の病態生理学における役割に関する興味は、種々の組織における局所的な役割へと転換してきています。これらの研究の中で、アンジオテンシン II (Ang II) 依存型高血圧症モデルラットにおいてアンジオテンシノーゲンの尿中への排出量が腎内局所レニン-アンジオテンシン系の活動性の指標になることが報告されています。Ang II 依存型高血圧症では、血漿 Ang II の平衡のみでは説明出来ない程度に腎内 Ang II が増加しており、これには Ang II の細胞内取り込みの増加と、腎内アンジオテンシノーゲンの発現の増加との二つの機序が提唱されています。

免疫抗原 : ヒト Angiotensinogen のリコンビナントタンパク質

起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ

クローン名 : 104AT 601.2.80                      サブクラス : IgG<sub>1</sub>

精製方法 : Protein A 精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2~8°C 保存                      5 年間安定  
溶解後 -20°C 保存                      2 年間安定

使用目的及び使用方法 : ウェスタン・ブロッティング 約 2 µg/mL にて使用可能

特異性 : ヒト Angiotensinogen の C 末部分(394-485 aa)を認識

参考文献 : 1. Satou R, Miyata K, Katsurada A, Navar LG, Kobori H. Tumor necrosis factor- $\alpha$  suppresses angiotensinogen expression through formation of a p50/p50 homodimer in human renal proximal tubular cells. *Am J Physiol Cell Physiol.* 2010 Oct;299(4):C750-9.  
2. Katsurada A, Hagiwara Y, Miyashita K, Satou R, Miyata K, Ohashi N, Navar LG, Kobori H. Novel sandwich ELISA for human angiotensinogen. *Am J Physiol Renal Physiol.* 2007 Sep;293(3):F956-60.

